

福大病院ニュース

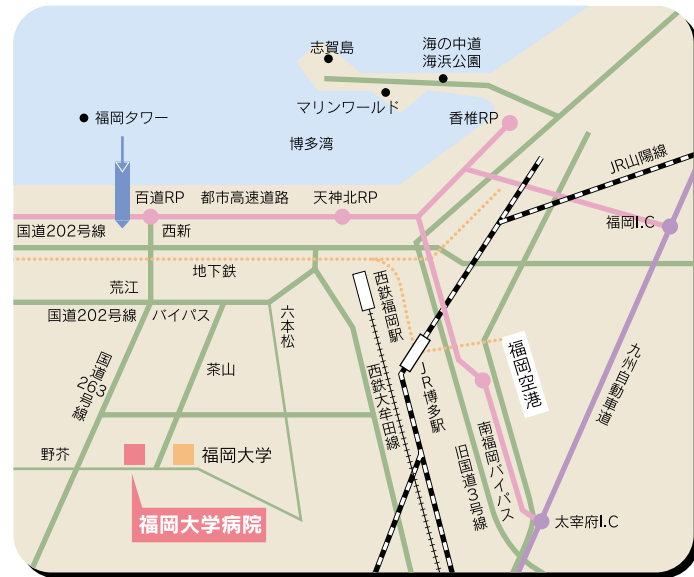
福岡大学病院診療科一覽

	02	03	07	08	09	12	12	13	15	20	18	20	23	24	26	28	31	32	35	38	39	42	43	44	45
診療科名	血液・糖尿病科	消化器科	腎臓内科	循環器科	呼吸器科	神経内科	健康管理科	精神神経科	小児科	小児科	外科第一	外科第二	整形外科	形成外科 美容外来	脳神経外科	心血管外科	皮膚科 美容外来	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科・ペインクリニック	歯科口腔外科	リハビリテーション科
診療日	毎日	毎日	月・火・水・木・金	毎日	月・火・水・木・金	毎日	毎日	※予約制	毎日	毎日	月・水・金	火・木・土	毎日	※予約制 月・火・水・木	月・水・金	火・木	※予約制 月・火・水・木・土	月・水・金	月・水・金	月・水・金	月・火・水・金	月・水・金	月・水・金	毎日	

【診療受付時間】 (休日除く)

※休診日：日曜・祝祭日、盆休（8月15日）、年末・年始（12月29日～1月3日）
 初診：（月～金）8時20分～14時 （土）8時20分～11時
 再診：（月～土）8時20分～11時 ※産婦人科の初・再診受付は8時20分～11時

交通のご案内



天神から

天神コア前バス停（7B）乗り場、あるいはダイエーショッピングプラザ前バス停（9）乗り場で、福大病院経由の14番、114番バスにご乗車し、福大病院前で下車してください。
 （所要時間 約30分）
 ※14番には福大病院を経由しないバスがありますので注意してください。

博多駅から

博多駅前バス停（A）乗り場で18番あるいは福岡交通センター1F（4）乗り場で福大病院経由の14番、114番にご乗車し、福大病院前で下車してください。（所要時間 約40分）

六本松（九大教養部前）・別府2丁目バス停から

14番、18番、114番で福大病院経由のバスにご乗車し、福大病院前で下車してください。（所要時間 約15分）

西新から

脇山口バス停で、95番の福大病院経由のバスにご乗車し、福大病院前で下車してください。（所要時間 約30分）
 ※昼間約40分間隔で運行していますのでご注意ください。

●天神、博多駅および六本松、別府から福大行き西鉄バスが運行されていますが、福大前バス停（本部）と福大病院は、徒歩で15分程度離れています。

病院付近交通のご案内



福岡大学病院

〒814-0180
 福岡市城南区七隈7丁目45-1
 TEL (092)801-1011(代)

URL : <http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/hosp/>



福岡大学病院の基本理念 あたたかい医療

- 高度先進医療の指導的病院
- 健康のための情報発信基地
- 地域に開かれた中核的医療センター
- 社会に必要とされる優れた医療人の育成
- 社会のニーズに応える患者中心の医療の提供

■ 患者様の権利について

医療は医療者と患者様との信頼関係で成り立っています。患者様一人一人が医療の中心となり、以下の権利と責任（患者様の権利に関するリスボン宣言）があることを福岡大学病院の職員一同は認識します。

1. 患者様は常に人間としての尊厳と、差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
2. 患者様は医師や病院あるいは保健サービス施設を自由に選択し変更する権利があります。
3. 患者様は検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて、十分に説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否の決定を下す権利があります。
4. 患者様は自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
5. 医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。
6. 患者様は健康について保健教育を受ける権利があり、自分の健康に対する自己責任があります。



福岡大学病院
第3内科 医師
渡邊 洋

C型慢性肝炎とインターフェロン

1. 我が国における慢性肝疾患の疫学

かつて我が国の慢性肝疾患の80%以上が非A非B型肝炎ウイルス由来とされてきましたが、1989年のC型肝炎ウイルス（以下HCV）の発見以来、非A非B型肝炎の殆どがこのHCVが原因ウイルスであることが判明しました。我々の施設の検討でも慢性肝炎の77%、肝硬変症の68%、肝細胞癌の81%がHCV由来であり、HCVが慢性肝疾患の成因の大部分を占めることが改めて証明されました。さらにHCV感染症はその多くが持続感染に移行し、いったん慢性化すると自然治癒することはまれであり、高率に肝細胞癌を併発することも明らかとなりました。しかしながら、その進行は一般に緩徐であり、長期の経過で肝硬変、肝細胞癌へ進展していくため、慢性肝疾患の治療を考える上では、慢性肝炎の時点で病態の進展をどのようにして防ごうかが臨床上重要と考えられます。

1992年よりC型慢性肝炎症例に対するインターフェロン（以下IFN）治療が保険適応となり、画期的な治療として多数の症例に投与されてきましたが、症例数が増えるに従って当初期待したほどの効果が得られないことがわかってきました。2001年にIFN+リバビリン併用治療が認可され、現在ではこのIFN+リバビリン併用治療が、IFNが効きにくい症例に対するグローバルスタンダードの治療となっています。ここではC型慢性肝炎に対するIFN単独治療とIFN+リバビリン併用治療の治療成績をそれぞれ述べてみたいと思います。

2. C型慢性肝炎に対するIFN単独治療

当施設で1989年より2001年までIFN単独治療を施行したC型慢性肝炎515症例を解析した結果、肝機能の持続正常化およびHCV-RNAの持続陰性化が得られた著効例が176例（34%）、HCV-RNAは残存するものの肝機能の持続正常化が得られた有効例が49例（10%）、そのいずれも得られない無効例が290例（56%）という結果が得られました。言い換えれば、IFNを施行しても半分以上の症例が生化学的にもウイルス学的にも治癒が得られなかったということです。さらに、IFN治療が効きやすいか否かを左右する因子の解析を行った結果、ウイルス量とウイルス遺伝子型が抽出されました。ウイルス量別の検討では、1 Meq/ml以上の高ウイルス群の著効率は6%であったのに対し、1 Meq/ml以下の低ウイルス群の著効率は64%でした。また、遺伝子型1の著効率は20%、遺伝子型2の著効率は60%という結果が得られました。つまり、我が国のC型慢性肝炎症例の半数以上を占める遺伝子型1かつ高ウイルス例は、IFNが極めて効きにくいことが問題点として浮上してきました。

3. C型慢性肝炎に対するIFN+リバビリン併用治療

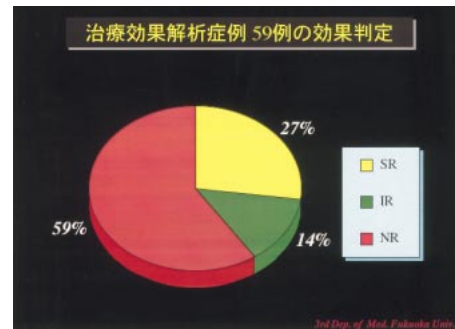
高ウイルス症例の治療効果の改善を目的に、2001年よりIFN+リバビリン併用治療が認可されました。当施設でIFN+リバビリン治療を施行したC型慢性肝炎59症例を解析した結果、著効例が16例（27%）、有効例が7例（12%）、無効例が36例（61%）という結果が得られました。つまり、IFN単独治療と比較し4倍以上の著効率が得られました。

現在、IFNをポリエチレングリコールで処理したPEG-IFN（ペグインターフェロン）とリバビリンの併用療法の治験も終了しており、今後さらに高率のHCV-RNA陰性化が期待されています。

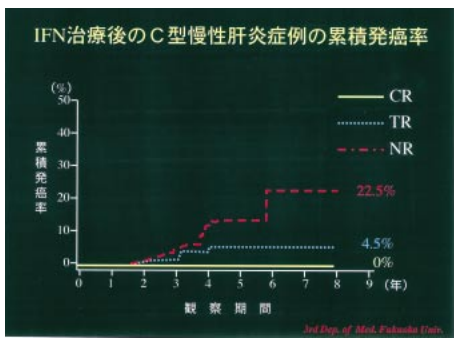
ただし、問題点がないわけではありません。第一の問題は、リバビリンの副作用として溶血性貧血が高頻度に認められることです。特に65歳以上の高齢者や女性は貧血のために全身倦怠感や息切れなどが頻発し、投与量の減量や、治療を中止する症例がIFN単独治療よりも多く認められます。第二の問題点は、動物実験でリバビリンに催奇形性の報告があることです。従って、妊娠可能年齢の女性患者のみならず、そのパートナーも治療終了後6ヶ月間の避妊の必要があります。我々も、これら2点に充分留意しながら治療を行っています。

4. IFN単独治療の発癌抑制効果

C型慢性肝炎に対するIFN治療の発癌抑制効果を検討するために、IFN治療終了後3年以上経過した長期経過観察例402症例の肝細胞癌併発率を解析しました。その結果、ウイルス排除できた著効例のみならず、肝機能正常化が認められた有効例からの肝細胞癌併発は1例もなく、IFN治療により肝細胞癌併発が抑制されることが証明されました。



IFN+リバビリン治療の発癌抑制効果も引き続き解析中ですが、治療により肝細胞癌併発が抑制されることは充分期待できます。



5. おわりに

欧米ではすでにペグインターフェロンとリバビリンの12ヶ月間併用治療が標準治療法になっていますが、我が国では未だ認可されていません。この治療法であれば、高ウイルスであっても40~50%の有効率が期待されます。前項で述べたように、体内からウイルスが排除されれば肝細胞癌併発が抑制されますので、C型慢性肝炎と診断され、肝機能異常が持続している方は積極的にIFN+リバビリン治療を行い、肝細胞癌併発のリスクを可能な限り減らすことが肝要でしょう。

曜日別外来診療担当医表

		月		火			水		木		金		土
消化器科	初診 再診	入江(肝) 西村(消)	向坂 山本	山本(消) 渡邊(午後)	竹山(肝)	青柳(消) 鈴木(肝)	鈴木(肝) 青柳・入江・前田(午後)	渡邊(肝) 江口(消)	西村(午後) 若田 吉兼(午後)	前田(消) 岩田(肝)	早田 青柳 江口(午後) 喜多村(午後)	早田(肝) 当番(消)	渡邊 中根

平成16年3月1日現在

「医療と健康のための市民出前講座」のご案内

福岡大学病院の基本である「健康のための情報発信基地」の一環として、平成16年1月から「医療と健康のための市民出前講座」を始めました。

この出前講座は、福岡市を中心に依頼された学校や公民館等に教員が出向いて講演するシステムです。講演時間は1時間程度、受講生は10人程度以上を目安としています。

福岡大学病院 医療と健康のための市民出前講座一覧表

NO	内容(題名)	診療科
1	貧血について	血液・糖尿病科
2	出血傾向について	血液・糖尿病科
3	糖尿病について	血液・糖尿病科
4	肥満と糖尿病	血液・糖尿病科
5	1. 心臓病について	循環器科
6	2. コレステロールって何?	
7	3. 不整脈が起こったら	
8	4. 高血圧の治療法	
9	最近増えた肝臓病	消化器科
10	胃潰瘍、胃癌とピロリ菌	消化器科
11	食道癌、大腸癌をおなかを切らずに治す	消化器科
12	蛋白尿とは	腎臓内科
13	むくみと病気	腎臓内科
14	足が痛い、腰が痛い	腎臓内科
15	腎移植のすすめ	腎臓内科
16	腎と高血圧	腎臓内科
17	口腔内乾燥	腎臓内科
18	糖尿病と腎	腎臓内科
19	結核	呼吸器科
20	睡眠時無呼吸症候群	呼吸器科
21	肺炎	呼吸器科
22	ボケ予防について	神経内科・健康管理科
23	パーキンソン病とは	神経内科・健康管理科
24	頭痛とその治療	神経内科・健康管理科
25	上手な急患センターのかかり方	小児科
26	上手な喘息とのつき合い方	小児科
27	上手なひきつけの対応法	小児科
28	痴呆について	精神科
29	うつ病	精神科
30	こころの病のリハビリテーション	精神科
31	カウンセリングについて	精神科
32	内視鏡を用いた外科治療	外科第一
33	肺癌とはどんな病気でしょう?	外科第二
34	胃癌をどのようにして治すか	外科第二
35	大腸癌が増えています	外科第二
36	タバコと肺癌・食道癌	外科第二
37	内視鏡外科手術とは何でしょう	外科第二
38	関節の痛み	整形外科
39	腰痛症	整形外科
40	関節リウマチ	整形外科
41	くも膜下出血について	脳神経外科
42	危険な頭痛	脳神経外科

NO	内容(題名)	診療科
43	視力・視野障害が生じる脳の病気	脳神経外科
44	手足のしびれと頸部痛	脳神経外科
45	脳卒中なんか怖くない	脳神経外科
46	頭をうった時どうするか	脳神経外科
47	進歩した心臓手術	心臓血管外科
48	身体にやさしい心臓手術	
49	小さな傷でできる心臓手術	
50	紫外線	皮膚科
51	美容皮膚科	皮膚科
52	泌尿器一般	泌尿器科
53	腹腔鏡手術	泌尿器科
54	尿路感染症	泌尿器科
55	不妊症	泌尿器科
56	小児疾患	泌尿器科
57	更年期障害の実態とその治療法を知る	産婦人科
58	婦人科疾患において、どんな病気なのか症状例を上げ解説	産婦人科
59	経口避妊薬(ピル)の正しい知識と使い方を解説	産婦人科
60	眼の疾患全般	眼科
61	難聴の話	耳鼻咽喉科
62	人工内耳の話	耳鼻咽喉科
63	めまいの話	耳鼻咽喉科
64	乳癌の診断	放射線科
65	痛みの治療	麻酔科
66	麻酔とは	麻酔科
67	命を救う	麻酔科
68	「デンタルヘルス」歯と全身の健康について	歯科口腔外科
69	「歯科心身症」について	歯科口腔外科
70	中毒のとっさの処置(家庭用品、農薬、etc)	救命緊急センター
71	子供を産むことの勇気と感動について考える	総合周産期母子医療センター
72	出産を体験する時	総合周産期母子医療センター
73	血液検査でわかること	臨床検査部
74	甲状腺の病気について	臨床検査部

※ 問い合わせ先(申込先)

福岡大学病院 医療管理課

TEL:092-801-1011 内線2885~2887

FAX:092-862-8200

〒814-0180 福岡市城南区七隈7丁目45番1号